トップスニュース

Vol.102

2018年1月25日

TOPS ひろしま

加盟団体

サンフレッチェ広島　JTサンダーズ　ワクナガレオリック　広島メイプルレッズ

広島ガスバドミントン部　NTT西日本ソフトテニス部　中国電力陸上競技部　コカ・コーラレッドスパークスホッケー部　広島東洋カープ

トップス広島 事務局

〒734-0007
広島市南区皆実町2-8-42
猫田記念体育館1F
TEL:082-254-2012
FAX:082-251-5712
URL:www.tops-h.net/

このQRコードから公式Webサイトへアクセスできます。

ソフトテニス日本リーグ優勝　8連覇！

12月5日(火)にホテルセンチュリー21広島にて日本リーグ8連覇を目指すNTT西日本ソフトテニス部の壮行会が行われた。選手たちは、日頃ご支援いただいている関係者の前で、日本リーグ8連覇を高らかに宣言した。そして、12月15日(金)から17日(日)にかけて愛知県で行われた第35回ソフトテニス日本リーグで順調に勝利を重ね、有言実行となるリーグ8連覇を達成した。

今回日本リーグを制した事で、NTT西日本ソフトテニス部として17年ぶりの国内大会の4冠を達成した。国内4冠とは、アジアカップひろしま国際大会、全日本実業団選手権、国民体育大会（えひめ国体）、日本リーグの4大会のことである。

来年度にかけてのNTT西日本ソフトテニス部の目標は、8月下旬からインドネシアにて開催されるアジア競技大会に、NTT西日本ソフトテニス部から一人でも多くの代表選手が選出され、日本代表として金メダルを獲得することだ。その為に、まずはシーズン最初の大会で3月10日(土)から11日(日)にかけて開催されるアジアカップひろしま国際大会で3連覇を達成し、来年度に向けて良いスタートを切って行きたい。

第78回全日本女子ホッケー選手権大会　第3位！

12月8日（金）、第78回全日本ホッケー選手権大会が川崎重工ホッケースタジアムで行われた。2017年から大会ルールが変更になりトーナメント戦で開催された。CCRSは8日、天理大学との一回戦に臨んだ。第2Qから勢いに乗り、その後ゴールを重ね3-1で準決勝に進んだ。

翌日、ソニーHC BRAVIA Ladiesとの準決勝に挑むも攻め切ることができず敗戦してしまう。9日、3位決定戦に進み、立命館大学ホリーズと対戦した。第1Qから積極的に攻め込んでいきチャンスを作る。12分、ペナルティーコーナーを獲得し、藤井選手のドラッグシュートが決まり先制する。第2Q、第3Qには2点ずつ決め、計5人の選手がシュートを決め試合を優位に進めていった。この日好調だったのは攻撃陣だけではなく、守備陣もピンチを迎えたが我慢強く無失点で守り切った。攻守で相手を圧倒し、5-0で勝利を納め、今大会3位となった。この試合が今シーズンにおいての最終戦。

今シーズン目標としていた成績は残すことができなかったが、来シーズンのチーム、選手たちの活躍に期待したい。

油谷監督就任後、初の「ニューイヤー駅伝」

1月1日（月）に元日恒例となる「第62回 全日本実業団対抗駅伝競走大会（通称：ニューイヤー駅伝）が群馬県にて開催され、中国電力陸上競技部が出場した。26回目の出場となる今大会は前年2月からチームを指揮する油谷監督にとって初采配となった。

9時15分、青空の下、号砲とともに37チームの選手が一斉にスタートを切った。8位を目標にする中国電力陸上競技部の1区はチームで最も調子が良い藤川拓也選手。積極的な走りで、先頭から5秒差の4位で2区へタスキをつなぎ、最高の滑り出しとなった。

その後、各選手とも力を発揮しましたが、目標の8位には届かず14位に終わった。新体制となって1年が経った。

この一年を生かすためにも2018年が中国電力陸上競技部にとって勝負の年になる。次回のこの大会での活躍に期待したい。

1区を走った藤川選手

歓喜の優勝パレード＆2018 年度新入団

2017 年 11 月 25 日（土）、37 年ぶりにセ・リーグ 2 連覇を達成した広島東洋カープが平和大通りで優勝パレードを行った。選手たちの姿を一目見ようと沿道には約 30 万人ものカープファンが駆けつけ、熱狂と大歓声が巻き起こった。

オープンカーや、6 台のオープンバスに緒方監督をはじめ、カープ選手、球団関係者約 100 人が乗り込み、平和大通りを約 3 キロ走った。10 時 30 分にスタートすると、沿道に駆け付けた多くのカープファンからは、「優勝おめでとう！」「感動をありがとう！」などの大歓声が上がった。今年も去年に続きとても嬉しそうな笑顔とともに、ファン 1 人 1 人に手を振って歓声に応えていた。それに続いて、選手が登場。沿道のカープファンの声援も一段と大きくなり、選手もそれに応えるように笑顔で手を振っていた。

ファンからは「また来年みんなで楽しめればと思った」との声があった。チーム最年長の新井貴浩選手は、「嬉しいですね。これだけ喜んでもらえると、みんな頑張ってよかったと思うのでは」とコメントした。 セ・リーグ 3 連覇、そして悲願の日本一に向けて今年もカープからは目が離せない。

また 12 月 13 日（水）、ドラフト会議で指名された 9 人の新入団選手が入団会見を行った。報道陣をはじめ、約 450 人のファンクラブ会員がリーガロイヤルホテル広島に集まり、中でもやはり注目を浴びたのは、ドラフト 1 位で指名された地元・広陵高校の中村奨成選手。

昨年、夏の甲子園で 6 本の HR を放つなどの活躍をした強肩強打の捕手である。会見でプロでの目標を聞かれると、「まずは新人王、最終的にはトリプルスリーや、誰も成し遂げていない記録を成し遂げたい」と強く語った。

その他にも幼少期を広島で過ごしていたドラフト 2 位の山口翔選手ほか 6 選手が入団した。1 月 15 日（月）から合同自主トレを開始しプロ野球選手としての生活が始まった。カープのリーグ 3 連覇、日本一に大きく貢献してほしい。そしてカープを勝利へと導く選手へと成長していってほしい。

オープンバスに乗り手を振る選手たち

新監督の元再び頂点へ

2018 年新シーズンのサンフレッチェ広島を率いるのは城福浩新監督である。城福新監督は、年代別日本代表の監督を歴任後、2008 年より FC 東京の監督を務め、就任 2 年目の 2009 年には、ヤマザキナビスコカップを制覇した。

2012 年ヴァンフォーレ甲府の監督時には、就任 1 年目で 24 試合無敗という J2 記録を打ち立て、J2 優勝及び J1 昇格を達成した。非常に情熱的な一方、しっかりとした理論を持った指導者で、若手選手の指導力に定評があり、コミュニケーション能力に長けた指導者である。城福新監督は「伝統と実績のあるこのクラブの一員になれたことを嬉しく思います。目の前の結果に徹底的にこだわること、サッカーを楽しむこと。この二つを選手たちと追い求める日々が今から楽しみです。」と新天地での指揮を心待ちにしている。城福新監督のもと、J1 優勝に向け始動するサンフレッチェ広島から今シーズンも目が離せない。

いざ、出陣！！！

また、1 月 14 日（日）に広島市内にて 2018 年サンフレッチェ広島新加入選手発表会見が行われた。大宮アルディージャより MF 和田拓也選手、徳島ヴォルティスより FW 渡大生選手、MF 馬渡和彰選手、ムアントンユナイテッド（タイ）より FW ティーラシン・デーンダー選手（2 月 1 日から合流予定）が新加入し、ユースチームより、GK 大迫敬介選手、MF 川村拓夢選手、MF 川井歩選手がトップチームに昇格する。

中でも注目を集めているのは、渡選手とティーラシン選手ではないだろうか。渡選手は広島皆実高校出身で、昨年は J2 リーグにおいて、日本人最多得点を記録した。初の J1 の舞台ではあるが、地元広島で多くのゴールを期待したい。ティーラシン選手はタイの国民的英雄であり、タイ代表でも多くのゴールを記録し、ACL でも鹿島や川崎 F を相手にゴールを決めている。サンフレッチェでも多くのゴールが期待される。 また、期限付き移籍より MF 川辺駿選手、MF 吉野恭平選手の復帰が発表された。広島市出身の川辺選手も注目の一人である。川辺選手は「J1 で活躍できるという自信を確信に変えて帰ってきました！」と心強いコメントをした。広島で成長した姿を存分に発揮してもらいたい。

日本ハンドボール選手権大会ベスト４

12 月 19 日（火）から 24 日（日）まで大阪市中央体育館などで行われた第 69 回日本ハンドボール選手権大会に出場し、ベスト 4 という成績を残した。

初戦の相手は豊田合成。前半は両チームのゴールキーパーの好守に両チームの華麗なるゴールにより 12 対 12 の同点で折り返した。そこから試合はお互いに譲らない展開となる。湧永製薬は一人退場者が出てしまい、人数的に不利な状況に陥る。その隙を突き豊田合成が攻めたてるも、湧永製薬のゴールキーパー志水選手が食らいつき相手に流れを渡さない。残り 8 分、23 対 23 の同点で終盤へ突入する。 試合終盤、ようやく試合が動いた。重い空気を断ち切り、湧永製薬が流れを引き寄せる。豊田合成も必死に食らいつくも湧永製薬が決勝点を決め、26 対 24 で見事豊田合成を下し準決勝進出への切符を手にした。

湧永製薬はリーグ戦でも首位に立ち昨年の大会を制した強敵、大崎電気と対戦する。 前半は 6 対 16 という大差をつけられ苦しい展開で前半を折り返す。後半は一進一退の攻防が続くが、点差を縮めることができず、20 対 33 で敗退した。しかし昨年のベスト 8 を上回る成績を残した。準々決勝で戦った豊田合成は現在リーグ 3 位を走る格上の相手であり、この勝利は自信につながる。まだまだシーズンは終わらない。これからの活躍に期待したい。

絶好調、メイプル 8 連勝！

1 月 8 日(日)、広島市マエダハウジング東区スポーツセンターで行われた第 42 回ハンドボールリーグ、ソニーセミコンダクタとの一戦。
メイプルレッズは 15 番の高山 智恵選手、18 番の李 美京選手を筆頭に得点を重ねていく。

守りでも 12 番のキーパー板野 陽選手の好セーブで相手に得点を許さない。 13 対 7 の点差をつけて前半を終える。
後半ソニーの反撃を受けるも、18 番の李選手のテクニックとスピードで相手を翻弄し、25 対 21 でメイプルレッズが勝利を収めた。

14 日(土)奈良県生駒市体育協会 S.C.体育館で行われた大阪ラヴィッツとの試合。この日もメイプルレッズは多彩な攻撃と堅実な守備を魅せ前半の主導権を握った。後半に入っても 3 番石川 紗衣選手、8 番三田 未稀選手の両スピードスターの速攻で確実に得点を重ねていく。

その結果、26 対 19 の大差で勝利し試合を終えた。
今メイプルレッズは 8 連勝と勢いに乗り全体の 2 位につけている。残りあと 10 試合、1 位の北國銀行とは勝ち点 4 の差がある。是非とも多くの応援で逆転劇を共に演出しよう！

シュートを放つ　李選手

惜しくも 3 回戦進出ならず

11 月 27 日(月)～12 月 3 日(日) 駒沢オリンピック公園総合運動場体育館において第 71 回全日本総合バドミントン選手権大会が開催された。この大会は、中学生、高校生、大学生、教職員、社会人の各カテゴリーの上位者が勢ぞろいする、名実ともに日本一を争う国内最大の大会である。

シングルスに下田選手と濱北選手、ダブルスに亀田・平井ペア、混合ダブルスに亀田・石川(丸杉)ペアが出場した。亀田・平井ペアは予選敗退、濱北選手は本選 1 回戦敗退という結果になった。一方で混合ダブルス亀田・石川ペアは本選 1 回戦で明治大学の上杉・仁平ペアと対決。大学生の勢いもあったが、見事セットポイントを取られることなく 2-0 で 1 回戦を勝利した。本選 2 回戦は相手の勢いに押され敗退となってしまった。シングルスの下田選手は本選 1 回戦で埼玉栄高校の吉田選手と対戦、1 セット目と先にとられたが、自分のリズムを崩さず、見事に逆転勝利した。本選 2 回戦はファィナルゲーム接戦の末、惜しくも 2 回戦敗退となった。また、下田選手は 1 月に行われたタイマスターズ 2018 にも出場しており、世界相手に粘りを見せながら準々決勝まで進み、ベスト 8 という結果になった。

次の試合ではさらなる活躍を期待したい。

新年初 ホームゲーム開催！

1月6日（土）広島県立総合体育館にてV・プレミアリーグ男子2017/2018 レギュラーラウンド第3Leg初戦、東レアローズ戦が行われた。

第1セット、トーマス・エドガー選手の6連続サービスエースが決まり、点差を広げた。さらには、新加入の小野寺選手の攻撃も決まり、リードを保った。 最後はトーマス・エドガー選手がブロックを決め、25-19で第1セットを先取した。第2セットからは両エースの打ち合いとなった。中盤からは東レアローズの攻撃が機能し始め、徐々にリードを広げられ第2セットを奪われた。 第3、第4セットは両者ともに譲らぬ展開を見せ広島のファンを盛り上げたが、 最後は東レアローズに押し込まれ、逆転負けを喫した。

翌1月7日（日）上位進出のために、なんとしても連敗を避けたいJTサンダーズはジェイテクトSTINGSとの試合に挑んだ。 第1セット、トーマス・エドガー選手と相手選手の打ち合いとなり終盤までもつれる展開となった。JTサンダーズは、深津旭弘選手の活躍など3連続得点により、セットを先取した。第2セット、序盤から互いに連続得点を奪い合う展開となった。接戦の末、連続失点を喫し第2セットを奪い返された。第3セット、両チームのリベロが好レシーブを連発し、ラリーが続く展開となり、セットを分け合う形となった。第4セット、序盤は接戦となったが、5連続失点を奪われ大きくリードされる。流れを変えたいJTサンダーズは控え選手を投入したが、点差を縮められず逃げ切られた。迎えた最終セット、JTサンダーズは立ち上がりから3連続ブロックを決めて勢いに乗った。その流れを断ち切ることなく、地元の大声援を背に逃げ切り、ファイナルステージへ向けた大きな1勝を手にした。

トーマス・エドガー選手

JTサンダーズ新加入選手紹介

小野寺選手

小野寺　太志（おのでら たいし）

世界大会にチーム最年少で出場するなどし、東京オリンピック出場も期待されている。

世界での経験や2m越えの伸長を生かした 巧みなプレーが期待できる。

武智選手

武智　洸史（たけち こうし）

高校時代、2年生からスタメンを獲得し、インターハイ、国体、全日本選手権の主要3大会を2年連続で制覇した。

大学では1年生の時からスタメンに入り全日本大学バレーボール選手権で優勝し、レシーブ賞を獲得するなども活躍を見せた。

熊倉選手

熊倉　允（くまくら あたる）

高校時代から日本代表に選ばれるなど経験は豊富な選手で、大学進学後も世界で活躍。

その高い跳躍力を生かした華麗なプレーが期待できる。

各チームの１推し選手を紹介します。

☆選手紹介コーナー☆

JTサンダーズ
井上　航選手

生年月日	1994年07月05日
身　長	170cm
血液型	O型
出身地	広島県

↓担当者からのコメント

リベロという守備ポジションにあって、彼のプレーは観客を沸かせます。シーズン１年目の若き力にご期待ください。

ロゴマークの意味

広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。
ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。

編集協力　広島経済大学　興動館
スポーツによる地域活性化プロジェクト